

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツタ博士のわかくがドングリが立ってくる

国立市立国立第七小学校

平成29年10月18日 NO.60 (460)

花ちゃん 「♪ドングリ こころこ ドングリこ
お池^{いけ}にはまって さあたいへん♪
♪ドジョウが^で出てきて こんにちは
オー君^{くん} いっしょに^{あそ}びましょ♪」

オー君 「あれ？ちょっとちがうよ。まあいいか。
ところで、このまえ^た食べたシイ^みの実、
スタジイのドングリはうまかったな。
ぼくは、お池^{いけ}じゃなくて、スタジイ
にはまったなあ。」

花ちゃん 「ところで、ドングリって、『こま』を
作^{つく}って^{あそ}んだりしたわね。それから
『やじろべえ』も^{つく}ったね。ドングリ
って昔^{むかし}から仲良^{なかよ}しだったけど、どう
して『ドングリ』っていうのかな？」

オー君 「もちろ・・・そんなの、知らないよ。」

モンタ博士 「ドングリというのはね、漢字^{かんじ}で『団栗^{どんぐり}』
と書^かくんだ。団^{だん}は丸^{まる}いということさ。」

オー君 「丸^{まる}いものがドングリなら、リンゴも、
ミカンも丸^{まる}いけどな・・・。」

モンタ博士 「あ！ごめん。ごめん。大切^{たいせつ}な^{こと}をいい忘れたけど、ドングリというのは、
カシヤシイ、ナラなどのブナ^か科^かという木^きの実^みのことをいうんだよ。」

オー君 「あ！わかった。あまぐりやくりご飯^{はん}にする、『くり』もドングリの仲間^{なかま}なんだ。」

モンタ博士「そのとおりだね。一番^{いちばん}食べられているドングリは『栗^{くり}』ということだね。

ドングリというのは、日本^{にほん}に22種類^{しゅるい}もあるんだよ。ドングリのせいくらべ
という^{ことば}言葉があるけど、どういふことかわかるかな。」

花ちゃん「どれも形^{かたち}や大きさ^{おお}が同じ^{おな}ようなもののたとえ^{つか}に使いますね。」

モンタ博士「さすがだね。花^{はな}ちゃん。あのね、どのドングリでもみんな^た食べられるのか
というと、そうではないんだよ。コナラやクヌギ、カシなどには、タンニン
という^たしゅみがあって、食べられないんだよ。」

オー君「人間^{にんげん}にはしゅくても、リスやネズミなどの動物^{どうぶつ}にはごちそうなんですよ。」

モンタ博士「そのとおり。それでは、とてもおいしいシイの実^みをみんなで探しに行こう。
そして、みんなでシイの実マップを作ろうか。」

一番食べられているドングリはクリ

普通、山で取れる小さいクリをシバグリといい、やや小ぶりだが甘さは最高。「栗^{くり}食い食い腹^{はら}がへる。」
といわれるほど食べる時に時間がかかる。栽培種はシバグリを改良したもので、天津甘栗にする中国グ
リ、マロングラッセにするヨーロッパグリなどがある。栗の材は固く耐水性があり、建築材、家具、薪、
炭、シイタケのほだぎなど用途は広いと言われている。昔は鉄道の枕木は全て栗を使ったとある本に書
いてあったが、東京一大阪間、どれだけの栗の木を使ったのでしょうか。